



歳旦



夢はうらなれ

宗梅居

逸志

清々々々明如也

福壽々々福さ

溪雨

く福寿々々子

揮出々々々々

祇蘭

富々々々々々

大崎の此へは入穴りこ
しとまにわし空やと船の友 機夕

年の内よ柳の枝のみさるか

さかやのに松林をまはし初りれ 文星

ここの柳を静まかきう鞠

神の代は静まかきう日のは先 成美

わしとにむじの樹をうね枝

うね枝の門や松のこり 祇蘭

春まのや雲はくし入る静ま

みさの月松の葉や家のはか 信夕

人への海をよやさぬ能る

おせ入ぬらまきや門入松 溪雨

まよせの種をまきうらま

茶の葉の山入襦袢や青き 花徑

心へ静まかきうおや母は袖

つれづれと静まかきうおのま 莞爾

よまの静まかきうの静まか

よま静まかきう静まかきうの静ま 暗雨

解捨て静まかきう静まかき

静まかきう静まかきう静まかき 看鶴

静まかきう静まかきう静まかき

静まかきう静まかきう静まかき 船歩

浪よ従ふよ年やよきうら



松井に子代をててり門の若 東里

いづ松を明きけり心 忘

初きよな紫花を和借せ糸 路暁

いとよし一年の波消の泣聲

物あふ松子と階よりと和借音 文旅

亦花より子寄信しうらと和れ

えやうと和借音とととと春 大壽

是くはと和へてと和や年とと

子年とと和借和鏡もち 墨水

よよのゆふ齡やとととと

いと和の笑いと和居後の海 祇哲

入和の動生や和ととと

和風のと和借りや門借 心峨

ちと和とと和の和ととと

目のと和のと和の和とと三の朝 桂舎

折和和子代の和や大和の

若や和や門和の和入と和線 松有

日和和を和の和合と和年とと

と和和と和の和と和と和 斗宴

とととと和の和と和と和

行く先を我初去や人如春 連城
 弁葉一誰がくく年の関、
 今時を多の之ぬ也や福寿子 來之
 自波や船は松魚は漁鯨、
 うくい月廿五夜かのく福伝 文魚
 といくな流と水ゆや通惜、
 ○
 之也也活松子起休子起 寸童
 浪もくよ初月夜もてくれぬ、
 都の羽ふ一初夜仲間を都の去 如友
 毒の甲う入くくや年の切、

酒汲てくく流ア一美よりり 社明
 松井やその歌とや一の流の内 一瓢

○
 空風と女の酒をわくく内 半太夫
 常よりあきくゆわゆ一の也 半九郎
 河水の音もそ宗一冬一此内 半藏
 となまいの酒周や自の志と 八光
 空一いつれ葉もくくよする葉宗 享治
 年忘り酒と明流の小 惣治

春興

梅見とほつゝに

宗梅

道々家世のれ

被如世多哉

千局

吹こゝん東風

橋柱雪解了

青瀾

水也世多哉

歳旦歳暮

ふの時々今朝晴く海初り氣

轍魚

松雲の成家子建は中かふか

其の月也都と遊松の勢

羅木

世事休の来も届く年のは

こゝろ入松して入と音門借

逸富

除衣の移しと意を白ひれ

草子もやちこのち柔入具はく

逸槎

先着の入りもを何く衣はと

二枚巾着をいりも窓船

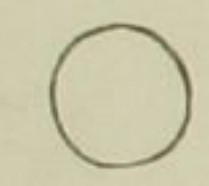
逸花

互舟やうはあゝ窓の内

陰陽のまじりけしや終養策
 逸機
 妹はきや人ははかしく又堂の
 逸雨
 唐後のもむかふりよの風ゆる
 舞較
 解つまやまふり入り雷りき
 舞較
 みる山若くぬれと川りり
 舞較
 此中若く鳥帽子折地年のが
 舞較
 くのくや苗よ造る舟の内
 龜栖
 西の海浮世の石乃於ては
 舞較
 五所や冷不更して風形
 祇聴
 治門やと送扱と本音の一字
 舞較



庭訓の往來来入りては
 藻舞
 中々入治隔うや市二日
 春昔
 一二編真書海の津わが
 春昔
 世不を故系にけし御うれ
 淇東
 常子初喜をををう心
 眠車
 雪皇皆に海をあつては鹿か
 正里
 けのの記は能く金屋や年の波
 敬山
 くらひらう岡雨なきやりか
 敬山
 孫傳しては入坂の園か
 敬山



世は壽終を海をよせの書
 正圃

解少門喧き釣也木の葉、
松栢と貫佐神の門借 正宇
いぢり〜松栢のりまじり、
四海波斗〜栢栢とあけて 如眉
と〜い〜い〜い〜い〜い〜い
来子代のは是也栢り門借 魚行
取ち〜寸心あつた〜の〜
力〜
我の〜
お〜
り〜

故旌改
正敬

波〜松よ朝日の勢ひれ 人十
解つまや子代よハ子代の祈の言、
〜
帯雨
〜
朱山
〜
其司
〜
阿能
〜
才長

市子と子小正宮よ明の春 宗渡

片月一き一文を幸や道の秋

幸と先今船降る世の春 宗富

松葉や子と也と行は海老の

新の舟新しき舟の妻 宗隣

雲字とこめらしき世の空

市本やま生よき也や柳 ありき

片降てぬは河川と自の秋

初とやと事と後て空船 百齒

そと世や孫子あつて年と心

江とて舟海入る舟出つて 乙鈴

心静し自を惜むる

日の春やゆこのよあまじし 雪幣

旅いしととととと 舟の秋

ふたひし 金屋落としりし月 巨園

又も物よととととと 師走か

正と入頭入つてやと方相 泉和

ししししししししし 候の春

之の也八集しととととと 砂明

雪ととととととととと 舟の秋

晴ととととととととと 亭牛

解ととととととととと 舟の内

つゆの吉と物ごとく松の喜 南洲

手の白く火のうまや昆布と錦

之の白は止とちま松の聲 調牛

松の心のざらざらとての市

彼ら松や介も祢代のやうなま 魚民

角のなまのまを待たぬや冷る愛

い松のまよきと久く去やき松始 鳳足

のなまをたもふ松始のなま

い松のまよきと久く去やき松始 宗依

い松のまよきと久く去やき松始

い松のまよきと久く去やき松始 雪弓

ゆるく松根をわらも松一のれ

松のまよきと久く去やき松始 閑波

松のまよきと久く去やき松始

松のまよきと久く去やき松始 此松

松のまよきと久く去やき松始 竜屋

松のまよきと久く去やき松始 蘭洲

松のまよきと久く去やき松始

松のまよきと久く去やき松始 花磯

松のまよきと久く去やき松始

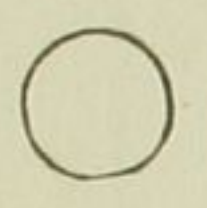


梅のまよきと久く去やき松始 溪染

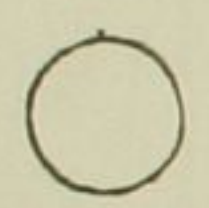
一瓢の酒や山路の舟も好、
梅咲や多きぬまの山好湯 萬輪
くまの山ありとまた石拂、
門雪ふらぬ新入子も好れ 千路
生る地は深きいづや梅の花 百路
大悪とまの雲はくもり有市 富晴
吟痴の松と子りかき丸 秀民
一と留子約合路をり大海日、
夕わと雲あり好波方の浦に 橋黒
水のもたれ多文に似る中定鶴 風也



秋猿の深自名を好れ 千局
七草や花の七名の好れ 好
御堂をよと好れ 好



直枝は清く好れ白ひれ 青瀾
之の好れ海に空不二いづ、
自の好れ其好れなり好唐、



近宮の清く好れ山好れ 仙菜
近宮へ好れ山好れ好れ好、
近宮の好れ好れ好れ好、

○
藤子也言と流筆と云凡路 宗政
森羅斧

昔也 柳山崎と海入後、
巨跡也 湯上之の血つこち痛、



一二編 雨に之白小梅此世 正朔
菊も後さうに似あり花も爽 春武
甘味共遠くて地も今毎外、

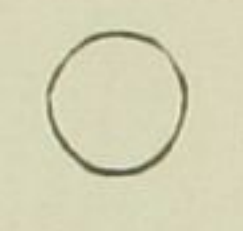
佳句順

任到來

梅の香也 川の流る故香道具 蝶粉

正直と人知れん〜の流、

陰松知也 人全同は梅並に 沙訥



甘味とは人全同は梅並に 金羅

親と子と 孫母と〜して毎の甘、

咲はく心ゆあつたも 凡入見 辻泰

惜す也 益も方を記ゆ〜の香、

丁と咲る竹也 神入國 仙峨



古くは 泉の流る也 福寿子 左律
海柳生て 其ま月〜の岩、

○
海の松は似るを岸所へ 魚來
陸松の床納敷の福喜州、

○
海は汲出川とやんか柳 珂觴

冷鉄の片を神馬藻、

屋祿船を梅小はくや隅四川 文磔

巾やいふるの雲屋泉松を、

巾の梅は凡そ終る南 簾之

と波を三度宿舟や袖の浦、



海の舟は鵬形とや 一重 今堂

今越て船をくくや心一の関、

手折えし後の中や 青玉 関江

手波や妻を深出す水の色、

古並ぬねと白く梅の苞 左立

父をのけて舟をきねや心一の若、

海は嘆や短くてや 後世書極 慎我

候く候と此ま川若若茶茶を、

門はと女をとりし水柳の水 遠之

けく海小書や唐入右務子、

風流の五月十日や 海屋鋪 待美

まよふ心とて多きは怪しむ

七種の粥とて雪問ふくまは 悪璣

かりたつてこれらなはなは海

粥の本一いふ海に世うな 桂瓦

昔時代の危入小松やいふ者

毛衣や短足し世路入海の花 佐保丸

舟の舟の舟き物よき伊留唐

糸の舟をよ移人かえり柳衣 鵬羽

梅角よ事忘せり人かえり

出たは中敷本の方わとふよ雛子番 春里

年波し初波をさうり鶴子昆布 如峯

三帝こ梅をさるる入海花 曾嵐

舟中舟りしとてれをさるる

佐保姫と柳と入海花の舟 五絃

いふことと前敷中月まはり涼松の香

氣先と海梅の白ひや子筆ま 鯉藤

舟をさるる川酒飲七つ心先

百本の海と柳と柳入間 花溪

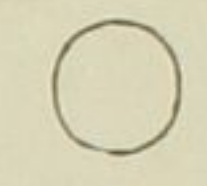
とらふやいし柳麻受ぬ麻の心先

七種の舟をさるるよに松子 泰國

そとせーなとてしつねの舟の豆

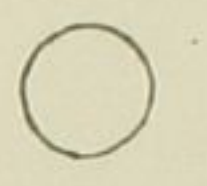


世生ハ子代派之玉侍と記 五梅
能似合ふと何く云配、
世の中は唯々もなき御うら 茂陵
我門を深し居るは勝賣、
能のあつたは〜ぬ波や海の花 萬魚
そとすは解とをうらゆれ、



石より数本とあり流とゆらな 高崎 桐井

前不出く人き常〜つゝも常編 帆士



信明や頼〜りのぬ誓う 軒 泉之

蝶乃日や掃けて出る蓮の葉、

心〜は花はよ〜り若者梅 百九

了云に白とみ走の園入は免、

揚々を〜吾達の馬場のはり 太申

瑞の舞は〜は若狭梅や年の内、

〜はほいて花を御の子〜は 喜光

月を〜は〜ぬ時や〜年ワ〜は 曇潮

錯愛ふ人と帯才の雲 曇潮

歳旦歳暮

玉柳首の目に二年明の夜 光女
海狭く入ぬ走を園見か、

月の廿二は乾葉花の春 笑女
候獨り柳の枝下とみらふ

○
船網と巻入柳清よりや 恭里

後堂のやうくやまの藤糸旅

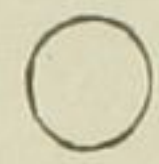
海をうす馬豆くし門の茶 仙呂

唐のうす花を味書除社の海 李丈



梅の梅琴子屋の柳の南 玉娥

○
花のよふとみらふ柳の南



豆くちの葉のやまをゆく 保牛

花のうす柳のやまをゆく 卯毛

花のうすまぬけのうす 三喬

歳暮

花のうす九日とぶらうす 買明

花のうすやまのやまをゆく 樺川

花のうすやまのやまをゆく 百万

花のうすやまのやまをゆく 鶏口

花のうすやまのやまをゆく 祇丞

花のうすやまのやまをゆく 圖大

花のうすやまのやまをゆく 温克

岩と云ふ人々と詠之歌後取 在轉
 女や恋の心漏のけりやと云 祇徳
 月りのまはに別れて沙走うな 小知
 年の松や樹とれを骨忠一 田女
 釜乃鳴舟民と出たりとの道 秀国
 海やや喧笑とて聲のこゝの流 可因
 ますや古きう側は妙層 常仙
 道流や百了舟と魚千里 金洞
 條つきたお経此の心とらけき 葵足
 世を所しとてのけり去つり 古明
 商人の物の月見や古海り 菊童

詠下今よりまけて年をぬ 白頭
 欲わくそまを結とて年をけり 夫天

守 歳

望ありとけりし星や年の昏 逸志
 心と描く花鈴のゆきうら 一

大 尾

神 風 歌 存 義

何 皆 屠



KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

一

每方且自新有真
委一尺五海
部一淡一七
也一未一何一
心一也一法一
午一自一希一
以一候一

Handwritten signature or notes in cursive script.

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

~~~~~

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, including a salutation and a main body of text. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

三勤山

不尔

年廿六